

子育てタクシー：好評 授乳・おむつ替えOK、手厚いサービス…

◇会員制で割増料金なし 支援する自治体も

乳幼児と母親を支援する「子育てタクシー」が全国に広がっている。乗車中のおむつ替えや授乳ができるタクシーもあって好評だ。タクシー業界の常識を覆す取り組みとして注目を集めている。

東京都大田区南久が原の主婦、渡辺千乃(ゆきの)さん(36)は、生後4カ月の長男の定期健診に通うため、10月20日から会員制の子育てタクシーを使い始めた。自宅に車はあるが、ペーパードライバーの渡辺さんは運転に自信がない。友人から勧められて会員登録した。

渡辺さんが利用しているのは、都内で唯一、子育てタクシーを展開する茂呂運送(東京都練馬区)の「CoCoRo TAXI」(こころタクシー)。昨年9月から都内23区などで始まった。

21人いる専門ドライバーのうち17人が女性で、ピンクの縁取りの入った上着姿でハンドルを握る。全員が乳幼児連れに対応できるよう研修を受講しており、乗降車時の手助けはお手のもの。禁煙の車内にエチケット袋や防水シートなどを常備。会員に応じベビーシートやチャイルドシートを準備している。

渡辺さん宅を訪れた専門ドライバーの本田義乃さん(42)も、9歳の長男を持つ母親。こころタクシーで初めてプロのドライバーとなって1年になる。「女性ドライバーというだけでリラックスできるお母さんが多いようです」と話す。

口コミやインターネットで集まった会員は、これまでに2310人。中には、深夜帰宅の女性や病院通いのお年寄り、塾や習い事に通う子どもたちもいる。走行料金が普通のタクシーと同額なことも評判で、毎月200人ずつ会員が増え、来年から24時間体制でサービスを行う方針だ。

同社の目標は会員5000人。吉田守泰専務は「妊婦さんなどからの要請を受け、年明けから24時間営業としたい。女性の働く場を確保するためにも、こころタクシーを拡大したい」と話す。

*

一方、昨年10月から子育て支援を始めた新潟市中央区の万代タクシーは、接客態度がよく子ども好きのドライバー20人を専属に充てている。同社も会員制で特別な割増料金はなし。要望に応じてチャイルドシートをつけたり、子どもだけ(4歳以上)の送迎も行う。

自治体の支援はどうか。東京都練馬区は今年9月、区独自の子育て検定試験に合格した10社139人に「ねりまキッズ安心タクシー」と書いた自動車ステッカーを配布。利用者に「選択」を促す。

また、同中央区は06年度から妊娠1回あたり3万円のタクシークーポン券を配布して家計支援を続けている。【野島康祐】

◇20都道府県で58社が導入

乳幼児を抱えた母親は車での移動に一苦労する。全国に先駆け、この問題の解決を進めてきた「全国子育てタクシー協会」(本部・高松市)の事務局長、中橋恵美子さん(41)は「子どもを楽に移動できないというだけで、子育て自体ができないと考える人がいる」と問題の根深さを指摘する。

妊娠中に破水した知人がタクシー運転手から暴言を吐かれ「黙ってられない」と3年前に協会を作った。以来、講演や専門ドライバー向け講習会などで賛同事業者も募ってきた。努力のかいあって、全国20都道府県で現在、772人(58社)のドライバーが走る。

子育て支援NPOの理事長でもある中橋さんは「基本的にはタクシー会社がどれだけ理解してくれるかにかかっている。子育て支援として、理解の輪を広げたい」と話している。

毎日新聞 2009年11月22日 東京朝刊